

しょうれん 力障連「わ」かい 報ほう

<http://challenged-catholic.net/> No.86 2019. 5. 28 発行

もくじ 目次

かんとうげん ふくいん こころ あゆ きょうりよくしさい はなふさりゅういちろう 巻頭言 福音の心でともに歩んでいけるように 協力司祭 英 隆一朗	1
だい きがつどう む がいちよう え ど とある 第13期活動に向けて 会長 江戸 徹	3
ごっかいせいがんしよめい きょうりよく ねが うんえいいん しのはらみえこ 国会請願署名への協力をお願い 運営委員 篠原三恵子	6
わ あ きょうせい しゃがい めざ な ご や しょうれん とみなが まこと 分かち合うこと、共生の社会を目指して 名古屋力障連 富永 諒	9
ねんかめいだんたいいけんこうかんかい ふくがいちよう たなか みのも 2019年加盟団体意見交換会まとめ 副会長 田中 実	10
だい きだい がいやくいんがい いけんこうかんほうこく じむきょくちょう こいけまさお 第13期第2回役員会・意見交換報告 事務局長 小池政男	17

かんとうげん 巻頭言

ねん がつ
2019年5月

ふくいん こころ あゆ 福音の心でともに歩んでいけるように

きょうりよくしさい はなふさりゅういちろう
協力司祭 英 隆一朗

みな しゅ ふかつ
皆さま、主キリストの復活おめでとうございます。
ことし ふかつさい おそ はじ
います。今年は復活祭が遅く始まりましたが、
いかがお過ごしでしょうか。神の恵みのうち
に、歩んでおられることと思います。

さくねん ぜんこくたいかい よこはま おこな
昨年は、全国大会が横浜で行われ、とても
印象深い1年になりました。横浜教区の皆さ
んの運営はとても良かったです。横浜教区は、
まいとし しょうがいしゃ とあ あゆ つど かいさい
毎年「障害者と共に歩む集い」を開催してい
て、そのような積み重ねの成果でもあると思
いました。

ひと あつ しょうがいしゃ
たくさんの方が集まり、障害者にとっても、
けんじょうしゃ ゆ う い ぎ わたしじん
健全者にとっても、有意義でした。私自身、

おお 多くのメンバーの顔を見ているだけで、幸せ
な気持ちになりました。一人ひとりとゆっく
り話す時間はなかったですが、共に集まり、
わ あ いの おお はげ
分かち合い、祈りをささげることは大きな励
ましになりました。3年に1回、全国の仲間
が集まり、交流を深め、情報を交換し、励ま
し合うことはとても大切なことですね。この
ような集まりは、これからも大事にしていき
たいです。私自身、手話をしっかり勉強しよ
うという決意をしました。

しょうれん やくいんかい えどかいちよう きめ はじ
力障連の役員会、江戸会長の2期目が始
まりました。大半の役員は継続しているよ

「仲間を知る」というのは、もちろん
統計上の数が分かることだけを意味している
わけではないでしょう。むしろ、障害をもつ
仲間と知り合いになっていくことだと思っ
ます。つまり、仲間づくりと、相互の励まし
合い・助け合いを目指しています。そういう
意味で、力障連が、「連絡協議会」だという
ことを再認識したいです。障害者同士が知り
合い、「連絡」を取り合いながら、よりよい
ものを目指して「協議」していく役目です。
連絡と協議をしていくために、今まで知らな
かった仲間を見いだし、知り合いになってい
く努力を続けていきたいと思います。

ジャン・バニエ（Jean Vanier、1928年9月10日－2019年5月7日）はスイスのジュネーブに生まれた、フランス系カナダ人のカトリックの思想家。知的障害や発達障害などの知的ハンディを持つ人々と持たない人々の共同体であるラルシュ（L'Arche）の創設者、ならびに知的ハンディを持つ人とその家族や友人が定期的に集まり、支えあうネットワークである信仰と光（Foi et Lumière）の共同創設者。2015年、宗教分野のノーベル賞とも言われるテンプルトン賞を受賞した。マザー・テレサやブラザー・ロジェの親しい友人であり、ヘンリ・ナウエンにも大きな示唆と影響を与えた人物である。信頼、障害、暴力、平和、共生などのテーマについて数々の著作があり、その多くは日本語にも翻訳されている。その霊的指導者としての

功績からカトリックの司祭と誤って紹介されることが多いが、聖職者ではなくレイ・パーソン（平信徒）である。

wikipediaより引用

愛するとは、その人の存在を喜ぶことです。

その人の隠れた価値や美しさを、気付かせてあげることです。

人は、愛されて初めて、

愛されるにふさわしいものになります。

ージャン・バニエ



第13期活動に向けて

会長 江戸 徹

主の平和

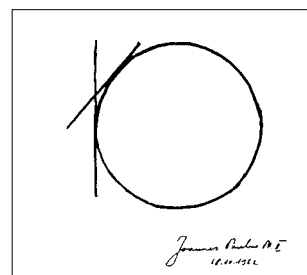
日ごろから私たち障害者へのご理解とご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

日本カトリック障害者連絡協議会（以下、力障連）は1981年、国際障害者年に、時の教皇ヨハネ・パウロⅡ世が来日され、これをきっかけに全国のカトリック信徒の障害者及び有志が集まり1982年7月に力障連が発足いたしました。力障連の機関誌の発行にあたりましては、ヨハネ・パウロⅡ世より力障連

へ「わ」という文字を書いていただきました。

この「わ」の意味は、一人ひとりの

人間が集まって一つの輪になり、心と力を合わせて一緒に進むことを、平和と完全を表す「円」の形で、そして私たちがキリストの精神によって歩むことを「十字架」の形で表されています。



どんなに重い障害があっても、「この世の中に生まれてきてよかった」と思える社会を目指し、そのためにイエス様のみことばから学び、「ミサへの完全参加と平等」を目指して活動している団体であります。

近年、障害者への理解は進んできているところではありますが、未だ差別や偏見、排除は後を絶ちません。2016年7月26日、神奈川県相模原市「津久井やまゆり園」で、戦後最大規模の殺人事件が起き、日本ばかりでなく世界中の人々に衝撃を与えました。犯人は「重度心身障害者は世の中の役に立たない不幸な人」と決めつけ、全く抵抗できない19人の命を一瞬にして奪いました。この事件は、生産性や効率性が優先される優勢思想にほかならず、社会的に弱い立場にある人たちが、息をひそめて生活しなければならない社会などあってはならないはずです。私たち障害者が悲しみに沈む中、2016年7月にフランシスコ教皇様より、「この悲劇に見舞われたすべての人に寄り添うと約束します」とメッセージをいただき、また2017年11月5日のカトリック新聞には「障害の

ある人を受け入れる教会を」と題して全世界にメッセージを送っていただきました。私たちはこのメッセージに感動しました。常に障害のある人々、小さくされている人々に温かいメッセージを送ってくださるフランシスコ教皇様に心から感謝申しあげると共に、今回、日本を訪問されるという喜びの機会に「障害者のためのミサ」を開催していただければ、これ以上の喜びはありません。

障害者を受け入れる教会ではなく、障害のある人を誰も排除することなく、ありのままを受け入れる教会となりますように。そしてすべての人が「生まれてきてよかった」と思えるような社会になることが、私たちの願いです。

日本カトリック障害者連絡協議会では、三年に一度全国各地で大会を開催させていただいており、昨年は横浜教区におきまして、梅村司教様はじめ教区の皆さんの大変なご支援を頂き、素晴らしい横浜大会を開催していただきました。そして次回2021年の全国大会は、高見大司教様や教区の皆さんのご理解を頂き、長崎教区で開催させて頂くこ





かめいだんたいいけんこうかんかい ひと
加盟団体意見交換会の一コマ

とになりました。

きょうこうさま ぜんこく てんざい
教皇様のミサにより、全国に点在する
しょうがいしゃ しょうれん ふくいん つた よ
障害者がカ障連とつながり、福音を伝える良
ししゃ きたい
き使者となれますことを期待しております。

ぜんこくたいかい はっぴょう
この全国大会において、発表いたしました
だい き かつどうけいかく い か とお
第13期の活動計画は以下の通りです。

1. ぜんきょうく しょうがい なかま し しょうがい
全教区の障害のある仲間を知り、障害の
ひと しょうがい ひと たが い
ある人も障害のない人も互いの生きづらさを
わかちあえるネットワークをつくる。

2. きょうかい しゃかい いちぶ にんしき
教会も社会の一部であることを認識
し、さべつ はいじょ しゃかい つく
差別や排除は社会が作りだしているこ
とをひろく しゅうち けんりじょうやく
周知するとともに、権利条約や
しょうがいしゃさべつかいしょうほう けんしゅう しょうさっし おこな
障害者差別解消法の研修や小冊子づくりを行
う。

きょうこう しょうかい だれ
教皇フランシスコは「カトリック教会は誰
よるこ むか い
をも喜んで迎え入れなければならない、身体的
せいしんてき ちてきせいやく かみ で あ とお
または精神的、知的制約が神との出会いを遠
ざけることがないように創意工夫する必要がある

ある」また、きょうかい しょうがい ひとびと まも
積極的に受け入れるに当たって、“だまって”
いたり、“鈍感なままで” いたりすることは
できません」とおっしゃいました。

しょうがい ひと わき お
障害のある人を脇に迫りやり、その
にんげんてきれいてき み す
人間的霊的なたまものを見過ごしてしまわぬ
よう、だれ よわ なか こんなん かか
誰もが弱さの中で困難を抱えながらも、
ゆた じんせい あゆ かつどう
豊かな人生を歩んでいけるように活動してい
きたいと思います。

わたし しょうがい ふくいん つた すこ
私たち障害のあるものも福音を伝え、少し
しゃかい なか もんだい かいけつ
でも社会の中にある問題を解決していきたい
おも
と思っています。

こんご しえん ねが いた
今後ともご支援いただきますようお願い致
します。

いの
祈りのうちに。



こっかいせいがんしよめい きょうりよく ねが 国会請願署名への協力をお願い

しょうれんうんえいいん とうきょうきょうくあきつきょうかいしよぞく しのはらみえこ
力障連運営委員（東京教区秋津教会所属） 篠原三恵子

ほうじん きんつうせいのうせきずいえん かい りじちよう しのはら ねん ねん とうほうじん
NPO法人「筋痛性脳脊髄炎の会」理事長の篠原です。2015年と2016年の当法人の
こっかいせいがん ぜんこく おお しよめい いただ ほんとう
国会請願のために、全国から多くの署名を頂き、本当にありがとうございました。

かげさま ねん せいがん しゅうざいん さんざいん りょうざいん さいたく みなさま いの
お蔭様で、2016年の請願は衆議院と参議院の両議院で採択されました。皆様のお祈
りにも感謝しております。

とうほうじん ねん ど さいど こっかい せいがん ていしゅつ いた
当法人では2019年度も再度、国会に請願を提出することに致しました。
きんつうせいのうせきずいえん まんせいひろうしやうこうぐん ねん こうろうしやう じったいちようさ
筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群（ME／CFS）は、2014年の厚労省の実態調査によ
って、患者の約3割は寝たきりに近い重症患者であるという深刻な実態が明らかになっ
ていますが、いまだにしっていなんびよう
ていまだに指定難病になっていません。

こくない しんけい内科い けんきゅう ひやくてき すす めんえきさいぼう めいかく いじよう み
国内での神経内科医による研究は飛躍的に進み、免疫細胞に明確な異常が見つかって
おり、きやっかんてきしんだんきじゆん かいはつ けんきゅう じゆんちよう すす せいやくがいしや こんちやく
客観的診断基準の開発の研究は順調に進んでいます。また、製薬会社も根治薬の
ちけん つよ かんしん しめ していなんびよう けんきゅうそくしん こんちやく
治験に強い関心を示していますので、「指定難病にするための研究促進」と「根治薬の
ちけん そくしん もと
治験の促進」を求めます。

こんかい せいがんしよ しよめいようし けいさい しよめいようし いただ
今回の「わ」に請願書と署名用紙が掲載されていますので、署名用紙をコピーして頂
き、みなさま きょうりよく ねが いた しゅうざいん さんざいん ていしゅつ かなら まい
皆様のご協力をお願い致します。衆議員と参議員に提出しますので、必ず2枚にご
しよめい ねが いた そうふきげん ねん がつ にち
署名をお願い致します。送付期限は2019年10月31日です。

また、ME／CFSの重症患者の実態を描くドキュメンタリー映画「この手に希望を
～ME／CFSのしんじつ かんせいた じょうゆ たけしたけいこ さっか おちあけいこ
真実～」が完成致しました。女優の竹下景子さん、作家の落合恵子さ
ん、せいしんかい かやま にほんしんけいがつかいだいひょうりじ にほんいしかいかいちょう おお かた
精神科医の香山リカさん、日本神経学会代表理事、日本医師会会長など多くの方か
ら推薦を受けております。1200円以上のご寄付で、DVDを一枚贈呈させていただきますの
で、おほ かた らんいただ びょうき りかい ふか いただ ねが
多くの方にご覧頂き、この病気への理解を深めて頂けるようお願いしております。

きふ ふりこ いただ さい なまえ そうふさき ゆうびんばんごう じゅうしよ でんわばんごうまた
ご寄付をお振込み頂く際には、①お名前②DVD送付先の郵便番号と住所③電話番号又
はメールアドレスを、メール（answertomecfs@gmail.com）かファックス（03-6685-
6233）で必ずお知らせ下さい。

ふりこみさき ぎんこう きごう ばんごう
振込先：ゆうちょ銀行 記号10040 番号92225421

とくていひえいりかつどうほうじんきんつうせいのうせきずいえん かい
特定非営利活動法人筋痛性脳脊髄炎の会

筋痛性脳脊髄炎の根治薬と難病指定の研究促進を求める請願書

2019 年 月 日

衆議院議長殿

参議院議長殿

紹介議員

印

請願者 氏名

(外 名)

住所 〒

一. 請願要旨

筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群(ME/CFS)は、世界保健機関（WHO）の国際疾病分類において神経系疾患(ICD-10 G93.3)と分類されている神経難病です。平成 26 年度には厚生労働省により実態調査が行われ、日本の ME/CFS 患者の約 3 割は寝たきりに近い重症患者であるという深刻な実態が明らかになりましたが、ME/CFS は指定難病の対象にも、障害者総合支援法の対象にもなっていません。

米国では国立衛生研究所（NIH）の神経系疾患セクションが主導して、免疫機能障害を標的にした治療薬の効果を確かめ、国の承認を得ることを目指した研究が行われています。その論拠として、ME/CFS にも罹患している患者の悪性リンパ腫の治療のためにリツキシマブを使用した結果、ME/CFS の症状にも効果があることが認められたことを示す医学誌「プロスワン」のノルウェーの 2 つの論文をあげています。また、2016 年にはアルゼンチンにおいて、免疫を調整する薬であるアンプリジェンが承認されており、根治薬開発の研究に世界中の研究者の注目が集まっています。

日本では平成 30 年に、日本医療研究開発機構（AMED）に国立精神・神経医療研究センター神経研究所の山村隆先生を班長とする「筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群に対する診療・研究ネットワークの構築」と題する研究班が誕生し、神経系疾患として本格的な研究が開始されています。今までの研究で、様々な免疫細胞の数の測定や機能の評価、次世代シーケンサーを使ったレパトア解析などで免疫細胞に明確な異常が出ており、また、通常の MRI 画像で検出できない微細な異常の検出が可能な最新の MRI 拡散イメージング法を用い、ME/CFS 患者の脳内構造に異常が見つかったとの論文も発表されるなど、ME/CFS の客観的診断基準の開発の研究は順調に進んでいます。本疾患は医療関係者の間でさえ認知度が極めて低く、診療にあたる医師が非常に少ないために、診断すら受けられない患者が日本中にあふれており、一日も早く指定難病にして頂くことを患者たちは強く願っています。

さらに、この疾患は 10 代～30 代で発症する患者が多く、重症度も高く就労困難なために、日本経済に与える損失は計り知れません。幸い、製薬会社も関心を示しており、根本的な治療薬の治験を促進して頂き、患者たちが少しでも社会参加できるようにして頂きたいと切望しています。

指定難病になることで本疾患の正しい認知が広がり、根治薬の治験開始により、実際に患者の生活の質の向上にむすびつく研究が遂行されることを切に願い、次の事項を請願いたします。

二. 請願事項

1. ME/CFS を指定難病にするための研究促進

- ①ME/CFS の客観的診断基準の開発の研究を促進し、一日も早く ME/CFS を指定難病にするための条件を整えて下さい。

2. ME/CFS の根治薬の治験の促進

- ①ME/CFS 患者が根治薬を手にすることができるよう、治験の研究を促進して下さい。

筋痛性脳脊髄炎の根治薬と指定難病の研究推進を求める請願書

送付期限 2019年10月31日

実際に患者の生活の質の向上にむすびつく研究が遂行されることを願い、次の事項を請願いたします。

【請願事項】

1. 筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群(ME/CFS)を指定難病にするための研究促進

- ①ME/CFSの客観的診断基準の開発の研究を促進し、一日も早くME/CFSを指定難病にするための条件を整えて下さい。

2. ME/CFSの根治薬の治験の促進

- ① ME/CFS患者が根治薬を手にすることができるよう、治験の研究を促進して下さい。

氏名	住所	印
	都道府県	
	都道府県	
	都道府県	
	都道府県	
	都道府県	
	都道府県	
	都道府県	
	都道府県	
	都道府県	
	都道府県	

問合せ先： 理事長 篠原三恵子 Email: cfsnon@gmail.com 副理事長 岩井美智子 TEL : 090-4056-7277

【署名時の注意事項】

- 衆議院と参議院の両院に提出しますので、**2枚**にご署名下さい。
 ○ご住所は**都道府県名を略さず、所番地まで必ず全部**書いて下さい。
 ○ご住所が前の欄の方と同じ場合でも、「〃」「同上」と書いたりせず、**略さず全部**書いて下さい。
 ○ご署名は自署で、こちらの面の署名欄だけにお願い致します。代筆の場合は捺印が必要となります。
 ※いただいた署名は厳重に管理し、請願の目的以外には使用いたしません。

【送付する際の注意事項】

- 直筆で書いたものをご郵送下さい。コピーやFAXでの送付は無効です。
 ○請願要旨と請願項目をお読み頂き、2019年10月31日までに**署名欄のある片面だけ**をお送り下さい。

送付先： 〒176-0001 東京都練馬区練馬 1-20-8 日建練馬ビル 2F

NPO 法人 筋痛性脳脊髄炎の会

分かち合うこと、共生の社会を目指して

名古屋力障連 富永 まこと 諒

いま わたしたち わす しま くら ひとたち
今の私達にとって、忘れられて、知られていない、ひっそりと暮らしている人達がいた。
ハンセン病の人達であり、回復者の人達だ。

だい だい ひとたち
20代、30代の人達はそんなことがあったの？

だいいじょう ひとたち しょうせつ み またえいが み
40代以上の人達は、小説で見たことがある。又映画で見たかな。

ねんれい あ おや がっこう しせつ い
もっと年齢が上がると親や学校で、うつるからそのような施設には行かないようにと
いわれて育った者が多い。

せいふ らいいがくかい つく あ い な さべつ
政府や癩医学界が作り上げた謂われ無き差別であります。

かんせんりよく よわ きん ちりょうやく ねん きょうせいかくり
感染力の弱い菌、治療薬があるにもかかわらず、1996年まで強制隔離し、その
ひとたち じんけん じゅうりん
人達の人権を蹂躪してきた。

わたし ねん がつ あまみおしま な ぜ し す
私は、1964年の4月まで、奄美大島の名瀬市に住んでいた。

な ぜ し やまおく へんきょう ところ あまみわこうえん い らいりょうようじょ ともだちなんにん
名瀬市でも山奥という辺境な所に、奄美和光園と言う癩療養所があり、友達何人かと
えん あ しょうがっこう てんにん せんせい たず
その園に在る小学校に転任された先生を訪ねたことがある。

いえ かえ ははおや たいへんしか くつ あら いふく あら もちろんてあし す
家に帰って母親に大変叱られて、靴も洗い、衣服も洗い、勿論手足はごしごしと擦り
あら
洗ったものだ。

こんかい だい かいなごやせいへいきょうたいかい だい ぶんかい こうえん もりもとせんせい で あ
今回、第40回名古屋正平協大会の第5分科会で、講演された森元先生と出会い、そ
のハンセン病の歴史や世界での現状を伺い知り、日本では、ほぼ発病は皆無となった
げんざい せかい やまい くる おお ひとびと し
現在でも、世界では、この病に苦しんでいる多くの人々がいることを知りました。

わたしたち しんと しょうがいしゃ なかま びょう やまい くる
私達カトリックの信徒や、障害者の仲間も、ハンセン病という病に苦しみながら、謂
われ無き差別を受けている人達のこと、もっと知って頂きたい、分かち合って頂きたい
な さべつ う ひとたち し いただ わ あ いただ
という願いから、次の書籍をご紹介します。

わたし わ あ きょうせいしゃかい め ざ ねが
それは私が「分かち合うこと、共生社会を目指して」という願いからです。

しょうめい しょうげん じぶん か しゃかい か
書名「証言・自分が変わる 社会を変える」

びょうこくふく きろく ふじたしんいち へんちよ じんげん れきししゃ
ハンセン病克服の記録 藤田真一 編著 人間と歴史社

しかくしょうがいしゃ てんやく おんやく
これは視覚障害者のために、点訳や音訳がされています。

せいぎ へいわきょうぎかいぜんこくしゅうかいなごやたいかい ねん がつ にち か さんか
カトリック正義と平和協議会全国集会名古屋大会（2018年10月23日～24日）に参加して

2019年3月23日（土）加盟団体意見交換会まとめ

しょうれんふくかいちょう たなか みのる
力障連副会長 田中 実

出席団体は、加盟団体16団体のうち12団体と、加盟を前提としたオブザーバー参加が2団体、そして関係団体1団体がありました。加盟団体からは、札幌教区カリタス家庭支援センター、仙台教区病障連連合会、福島カトリックグローリア会、カトリックさいたま教区障害者連絡協議会（共愛会）、群馬カトリック身障者グループ（群カ身）、東京カトリック障害者連絡会（ヨブの会）、東京オリーブの会、ラルシュ・かなの家、カトリック名古屋教区障害者連絡会、力障連大阪フレンドリー、福岡オリーブの会、一粒の麦の会サクラ、オブザーバーとして、カトリック吃音のつどい、さいたまオリーブの会、関係団体としてNPO法人筋痛性脳脊髄炎の会。以上15団体の出席で10時半から19時半まで熱心に話し合いました。

江戸会長発言＝力障連の会長として2期目です。1期目にアンケートを取りまして、教会の中に障害者がどのくらいいるか、先ず知りましょうということでした。2期目は知り得たものを、どういうふうにまとめるか、ということです。教会の中にも、合理的配慮、これがどこまでできているのかということ伝えていかないといけないし、まだまだ見えない障害の方がたくさんいらっしゃると思います。一緒に歩んでいけるような2期目にしたいと思います。

■交換会の話し合いテーマ

- (1) 各団体の2018年度活動実績と2019年度活動計画の報告
- (2) (テーマ1) 私たちの活動が広がり、深めていくために何が出来るか？
- (3) (テーマ2) 障害者差別解消法について考える

■話し合われた内容のまとめ

- (1) 各団体の2018年度活動実績と2019年度活動計画の報告
それぞれの活動実績と次年度計画について報告があった。各団体とも特色のある動きをもっており、各教区内において地道に展開されている様子がわかった。
今後、教区内において幅広く活動が理解され、新たなメンバーの掘り起しと、障害当事者と支援者の連携が強まることを検討されている。又、他団体・障害者間の情報共有と協力関係を高めたいとの意見も多くあった。

(2) (テーマ1) 私たちの活動が広がり、深めていくために何が出来るか？

「私たちの活動が広がり、深めていくために何が出来るか」。5つのグループ（5～6名）で話し合いました。臨場感を持たせる為に各グループ別のまとめを掲載致します。

Aグループ＝標題を3つにわけました。まず、広報活動。「わ」に掲載して活用する。加盟団体のPR活動をする。力障連があるということを周知させる場とする。団体のPR活動を行う。交流会を開催する。オリーブを全国大会として開く。最後に、教会訪問をしていくが挙げられました。2つ目に活動の深化、これは3つあります。①広げるより深める。この集まりを大きくわけて北海道、東北、関東、近畿、九州など、ブロックで集まる。お互いの顔の見える場づくりを行う。②教区内の公認団体を知る。③楽しんでやっていく、ということが挙げられました。3つ目が組織のひろがり。ネットワークの強化をはかる。よこの連携を構築する。おおまかな組織図を作る。力障連が全体を掌握する場にしていく。地域ごとの交流会を行う。教会内に広めるために中心となる体制づくりをする。それぞれ障害をもつ人々が繋がっていく。

Bグループ＝力障連のことを訪問し説明しよう。各教会をまわって知ってもらおうPR作戦です。各教会を訪問して実際に障害者ミサをやろう。障害者ミサだけじゃなく、障害当事者の話とか研修会も含め、訪問先の教会で実のある何かする。もう一つは、加盟団体がお互いに協力して対策を考えていこう。そもそも力障連とはなにか、広がりを深めるとはなにか、今までの流れを理解したり、今一度、理解を深める。もう一つは、力障連のイメージを広げるために、力障連の日をつくる「力障連デー」。力障連のポスターを作る、グッズ販売する、こういうイメージ作戦。自分自身が思っていることを率直に話すことができ、参加しやすいようにするため、力障連を見直す。その他には、司教、司祭のなかに、障害者担当の会議をつくったかどうか。あるいは、障害者を発掘、しかも若い障害者を発掘する。一方、障害者じゃなくても若者はカトリック教会に来ない。友人、知人に力障連パンフを配る。高齢者もだんだん障害をおっていくが、障害者という意識がない。高齢者も障害者であるという意識を持ってもらうためのアクションを起こす。今回のアンケートに基づいて力障連として実現できることをやっていく。結論は、1つでも始めよう。今のままじゃだめ。自分一人でも動こう。

Cグループ＝まずいろいろな方法でこの会の存在を知らせる。機関紙、教区報、情報ツール、フェイスブック、各障害者団体報などで、会の存在をみんなに知ってもらう。次に出かけていって、障害者活動をしているグループを知る。グループの会合や小教区を訪問してセットアップしていく、その場で交流する。プロテスタントなどとも協力する。我々が交流できる場を作る。教会の

中なら「～の部屋」というように、気軽に行ける場所とか、当事者だけでなく、家族も集まれる
場を広げる。同じ悩み、障害を持ったもの、持たないものも理解しあうためにも他障害の人とも
話し合い、集まれる場を設ける。集まる場所にイベントを工夫して若者が集まるような、お楽し
みイベント、温泉旅行とか、黙想会などのイベントを工夫して、若者が参加しやすいことも考え
ながら工夫する。パソコンが得意な若者にパソコン通訳者の募集をするとか、サポーターの集ま
りになる青年会など、若者がからんだ参加イベントを工夫したい。やはり交流するにはお金も
必要。支援者を募ったりして会員を増やす、そういう形も大事。そのためにも、出かけていって
PRして支援者を集める。同じ障害を持つ人と交流する。

Dグループ＝5つにまとめることができました。1つ目。カ障連全体の分かれたグループについて
もっとPRができるのではないかと。具体的には根気強く説明を続ける。

お互いを理解する努力とか、見えない障害に対しての理解と共感を持つなど前向きな意見、ま
た、教会間の訪問をしあいカ障連をPRする。教区の中で障害者をもっと知ってもらおう。

とにかく活動が続けていくということ。インターネットやブログ、SNSなどを利用して情報
を提供していく。イベントに出展してビラや説明をしてPRする。カ障連のPRをもっと高めよう、
具体的にどうしたらいいか。障害者のみなさんが15人ほどで人形焼を作り販売する、カ障連の
集まりでお菓子を作って販売する、映画やDVDの鑑賞会でカ障連を宣伝する、カ障連の踊りを
考えて盆踊り的な工夫をする。カ障連独自の歌を作りダンスをする、手話も必ずつける。

カ障連のゆるキャラを作ってPRをして販売する。キャリアアップについては、排除のない
教会、バリアフリーの教会づくり、車椅子が通れる教会づくり、教会は一つの家族でありたい。
信仰という面では、分かち合いとか、青少年の問題、高齢者の問題、過疎化の問題がある。その
中で信仰として、わたしたちが心がけたいこと、喜びを持った教会というイメージをもっと出し
ていけないか。外国人も含め、若い人がもっと参加できる教会を考えていきたい。

助けを求める人の小さい声を聞き分けよう。仲良しではなく、信仰の集まりをしていきたい。
まだ信徒になってない人のためにも、「みんなの教会」といえる教会に。奉仕は互いに小さき者
となっておこなう。教会の中の争いをなくしたい、祈りを土台にした集まりでありたい。眼差し
の大切さ、お互い温かい眼差しで見つめ合う、大きな声より小さな声に耳を傾けていきたい。そ
れぞれが奉仕できる場を見つけていこう。教会から出ていって福音を伝えよう。

Eグループ＝1、障害者の信徒がいるかどうかの把握を小教区と神父に知ってもらおう。2、小さ
なグループも教区に公認されたい。ハードルを自分たちで作っているのではないかと。障害者の
新年会を開催する。障害者施設の利用者にも話しかけていく。小教区にミサから参加させても

わたし せつめい たの しゅうかい きかく じゅくねん つど
らい私たちのことを説明させていただく。3、楽しい集會を企画する、カラオケ、熟年の集い、
おんせん たの たいかい しょくじかい こうりゅう ば つく こうえんかい しょうれん し
温泉で楽しむ、スポーツ大会、食事會など交流の場を作る。そして講演會、力障連を知ってもら
いたいという熱意が大切。4、機関誌を発行して理解してもらい、カトリック新聞に掲載してもら
う。未知の人と出会う。教区内の教會に障害者の會があることを伝える。手話通訳がないか
ら、はるばると自分の教會ではなく他の教會に行く方が多い。自分の教會籍のある教會で活動し
たい。現実的な対応、理想論ではない。カトリックとなるとみんな真剣な顔をしているが、これ
じゃみんな、喜んでくれるとは思わない。もっとのびのびとあるべき。

つぎ ぜんたい ほうこく き よ こうもく りゆう
次に5グループのリーダーが、全体の報告を聞き、これは良かったという5項目とその理由を
述べていただいた。これも紹介します。

ばんめ こうりゅうかい かいさい かくだんたい かつどう わ ひろ しょうれん たいかい なんかい
①1番目は、交流會の開催。各団体の活動の輪を広げる。力障連の大会も何回かやっていますが、
もう少し地域を限定して、一つの団体の参加の回数を増やす。2番目は、イベントの開催。
じっさい おこ だんたい おも じぶん ちい はんい
実際イベントを行なっている団体があると思いますが、自分たちの小さい範囲だけでなく
て、イベントによって地域の皆さんといっしょにできるのではないかと思います。3番目は、
きょうかい しょうがいしゃ たいおう ちい き しょうがいしゃ たいおう おん どさ はげ おも
教會での障害者への対応。地域ごとによって、障害者に対応する温度差が激しいと思いました。
それを知れてよかった。4番目はネットワーク。いろんなPRをして、もう少し横のネットワー
クを持ったほうがいい、という意識が持てたのがよかった。5番目は、単純に楽しむこと。細
く長く。活動をするためには、進める方の意識上のことが必要になってきますので、これを挙
げました。

で あ ひと で あ はじ いしき
②ひとつは出会い、人と出会わないと始まらない。どのグループもこれを意識していた。つなが
り、これは心でつながること、楽しくなければいけない。気持ち、一人一人の心が楽しくなる。
じょうほう もんだい じょうほう りかい ばんおど こじんてき
情報。いろいろな問題の情報を理解すること。あとはPR、盆踊りみたいなものには個人的に
さんせい かんが なに かく で
賛成です。インパクトを考えて何かをやるということ、それが各グループから出ていました。

ばんめ しょうれん し ばんめ こうりゅう なかま ばんめ
③1番目はPRということです。力障連を知ってもらう。2番目は、交流・仲間づくり。3番目は、
わかもの あつ しょうがい わかもの たと いま わか ひと
若者を集める。障害をもった若者もちろんですが、例えば今の若い人は、パソコンができた
りするので、要約筆記だとか、ボランティアの分野で、障害のない人も集めようということ
です。あとバリアフリーは、もちろん言うまでもなく教會に来やすいとか、いつ行っても入れる
きょうかい しんこう じぶん ないめん み み うえ なかま
教會をとく。信仰は、やはり自分の内面を見つめたりとか、見つめた上で仲間とのかかわりと
か、社会との関わりとか、原点になるものが信仰だと思ふ。

きょう はな あ しんぶん しょうれん しんぶん けいさい いま
④まずPR、今日の話し合いは、カトリック新聞、力障連の新聞に掲載してほしい。今までも
で き すく かい わる われわれかいいん どりよく た かいちょう
出来ていますが少ない。會が悪いのではなくて、我々會員の努力が足りないということ。会長

さんは立派にやっていますから。多方面にPRしたらいい。私の経験では、各教会にそれを増やしています。地域の5教会が団体として参加している。個人参加はもちろん、団体参加もしています。イベント、キャリアアップなどあります。これは各教会とも出来る範囲内でやるということ。もう少し努力したらどうかなと思いました。次に分かち合い。ベトナムの青年の話が出ましたが、日本は外国人が増えています。教会の中でもベトナム語で信仰宣言をしたり、主の祈りをしてもらったりということがこれから増えていきます。同時に青少年へのやさしい受入れが必要です。それから、教会に求められる姿。「心ゆたかな交流」という表現をしているが、これは私たちの心を広げること。来たものに違和感をもったり、全く正反対の意見があっても、ひととおり「そうだよね」と聞く態度。排除のない教会ですね。施設はバリアフリーが必要。それと、心通じ合うような、広い心をもった信者になれることが必要だと思います。

- ⑤ 一番に挙げたのが教会訪問。今の教会に書面で送っても見る人がいない。顔と顔を合わせて話をして人間関係を作らないとまず聞いてもらえない。各教会で聞いてもらえるのは、ミサに参加して、お知らせに時間をとってもらってPRするのが効果的。楽しいイベント。何でも楽しいイベントを企画する。前の山田会長が言ったのは楽しくなければ福祉ではない。いろんな企画をするにしても、楽しいように考えれば、楽しければ人は集まり、つまらないのは問題、いかに楽しくするかが大事。すべての人が、どんな障害をもっている、もっていなくても生まれてきてよかったと亡くなるときに言えるような会、そういう会を知ってもらいたい。カ障連の歌と踊りもいいと思う。提案。ひとつは盆踊り。ひとつはヒップホップこれをしないと若者が入らない。踊りとヒップホップタイプでレコードを出して売って欲しい。お金も集まり、活動もたくさんできると思います。何かを始める。今の時代ほど無関心なことはない。何かして、何事にも関心を持つ信徒になってほしい。何をしても本気になって動かない。いろんな人が障害について理解してもらった上で、はじめて機関誌を読めば心が広がり、信仰も含めて楽しくなって人間関係ができる。やはり楽しく。そして、人が本当に生まれてよかったと伝える使命が私たちにはあると思う。

グループワークで話し合われた内容を列記しました。いずれも自分の問題として考えないといけません。特に、会のアピール（各小教区訪問での出会い・障害への理解・仲間を知る・カ障連団体間連携・社会啓発・広報）とコミュニケーションづくり（異なる障害者間、地域、若者、イベント）などです。同時に私たちの信仰のありようを求められていると思います。今日の内容を各グループ、団体に持ち帰って、しっかりと話し合っ、それが教区に広がるように、各団体の発展につながるようにしたいと思います。カ障連においても検討を高めていきます。

(3) (テーマ2) 障害者差別解消法について考える

3つ目のテーマです。江戸会長から話がありましたが、プロジェクトチームをつくって検討していただくということで、昨年11月の役員会で検討が進んでいます。加盟団体の皆さんにも協力していただきたいと思います。

本テーマについては、協議時間の制約があり、ホワイトボードミーティングで話し合いを進めました。難しい表題だとなかなか意見が出づらいため、「差別、ここが問題、障害者差別解消法」に絞りました。社会的な法律視点よりも教会内の合理的配慮に絞って話しあいました。

■主な意見を箇条書きにします。

- 1、今の障害者差別解消法は、雇用者の水増しなど名前だけの法律とを感じる。
- 2、競争のあるところに差別あり。もうひとつは、欲あるところに差別あり。
- 3、経済差別。同じ仕事の能力があっても、障害者と健常者の評価の違いがある。
- 4、優生思想が未だにある。
- 5、合理的に生きようとすると、生産性のないものは切り捨てられる。差別と気づきなさいと法律は言っている。私たちはイエスの教えを通して知っている。
- 6、そもそも、差別と区別の違いをわかってないことが問題。差別は差別で昔からあったけれど、その中で区別をして、できるもの・できないものをきちんと区別して支える仕組みになれば良い。
- 7、差別の助長される場面に遭遇する私たちは注意が必要。
- 8、イエス様やマリア様の美しい像に憧れる方がいると、首をかしげる。
- 9、私の心に差別がある。根っこにある。誰にもあるが気づいていないということ。
- 10、アンケートの結果として「教会には障害者はいません」と答えた教会があった。
- 11、ハンセンの方と一緒にミサしようとすれば絶対にノーという方がいる。
- 12、力障連が立ちあがった時は、教会内に差別や偏見があるなかで皆さん始めたと思う。それが今でも教会内にある。
- 13、まず教会のなかで、こういった差別があるかを知る必要がある。
- 14、教会内における差別とはなにか？その解消についての手引き書を作成したい。
- 15、例えば、古いお城は文化財だからエレベーター設置をやらなくていいという法律があるようだ。それが教会に当てはまるのなら、それは小教区で解決すべき問題になると思う。その辺りを加盟団体があれば、そこから強く要望できる、そうすれば、もっと障害のある方が教会に出かけられる。
- 16、障害者差別解消法を各省庁のサイトで確認すると、文科省では宗教法人も適用されると書

いてある。皆さん確認してください。

- 17、実施したアンケートの整理をして、横浜大会にもお出ししたが問題になったのは、教会内における情報保障の対応である。
- 18、情報保障だが、ろう者の方には手話がつけばいいと思っている人がいる。しかし、手話と一緒に要約筆記も必要。難しい言葉などは、必ずろう者も両方見ながら判断されている。それから、視覚障害の方には音と点字が必要。しかし、それだけだと思っている人が多いが、とても大事なことは知的障害の方にわかりやすく短く話をすることも情報保障。更に発達障害の特に自閉スペクトラムの人に、双方向の情報保障をすることも必要。
- 19、神父様が説教をするのに、「手話通訳が気になって説教できないから後ろでやれ」と言われた。手話を後ろでやったら意味がない。
- 20、教会の中でも健常者中心に考えて耳を傾けていただけない。逆に神父様が手話通訳をやろうというと、頭の固い信徒が多く「なぜそんなことを？」と逆に神父様が責めつけられる教会もある。
- 21、健常者も高齢者になるとほとんどは耳が遠くなったり、目が見えなくなったり、足腰が立たなくなっている。神父様の説教が分からないと言いながら、教会委員会もなかなかそれらの対応を一つの行動として動かない。そういう実態が多いと思う。
- 22、消極的な障害者がいることが問題、横浜大会の講演会で講師の安積遊歩さんが、「おかしいと思ったときには声をあげていく必要がある」という話があったと思う。消極的なことが問題で、おかしいと思ったら、私たちが積極的に声を出さなければいけない。声を上げる必要が。
- 23、障害者差別解消法は、宗教行為、司祭や教会の役員が信者に差別的な扱いをしたときに適用される。法律としてはその理解で良い。更に私たちは教会内の合理的配慮の実体把握と改善を進めていきたい。
- 24、教会の中で、ミサの完全参加ができる、そのように変えていこう。それが地域・福祉・行政も動かしていく契機につながれば良い。

以上、障害者差別解消法の取り組みでは、法的義務や原則以上に、教会内の差別・無関心・無視などを含めて、ハード・ソフト・ハート面での合理的配慮がどこまで整っているか、これは組織的な課題もありますが、信徒の集まる共同体としての意思が問題ということになります。

このテーマも結論を導きだしてはいませんが、各団体及びカ障連で引き続き検討を進めていき、教会内で使える障害者差別解消の手引書（案）が作成出来るように、具体的な行動を起こしていきたいと考えています。引き続きご協力をよろしくお願い致します。

第13期 第2回役員会・加盟団体意見交換会報告

日時：2019年3月22日（金）～

24日（日）12時

場所：聖公会ナザレ修女会（東京吉祥寺）

1 加盟団体との意見交換会開催に当たっての事前打ち合わせ

- ①開催内容、準備、役割分担の検討
- ②特に第13期活動方針の①全国の仲間を知る②障害者差別解消法の手引き作成をテーマに各グループに分かれて検討してもらうこととした。

2 長崎大会準備状況について

- ①2 / 28 江戸会長と小池事務局長が長崎に行き、力障連の全国大会開催に当たっての基本方針の説明を行った。
- ②その中の一つが長崎から役員会に毎回参加して頂き、今後もコミュニケーションを深めていくことをお願いし、今回から代表が参加して頂くことが出来た。
- ③長崎の代表から現在の状況と今後の進め方についての説明を受ける。

3 今年フランスコ教皇様の来日に合わせて力障連としての対応

- ①2 / 1 付けで日本司教団へ「障害者のためのミサ」の開催の要望書を提出。
- ②今後の司教団からの回答や状況を把握して具体的に「障害者のためのミサ」を開催して頂けるよう、事前に具体的な要望書を作成送付し、タイミングをみて再度働きか

けていくこととした。

- ③教皇様の日程が確定していないので何とも言えないが、秋の役員会の日程変更の検討を行った。
- ④秋の役員会時に研修セミナーを開催予定であったが、来年春の東京での役員会時に加盟団体の意見交換会と併せて研修セミナーを開催することで加盟団体の皆さんも参加して頂けるよう検討を進めていくことになった。

4 加盟団体意見交換会

- ①3 / 21（土）10：00～17：00まで意見交換を行い、17：00～19：00まで交流会開催。
- ②今年度から午前中から開始、各加盟団体の2018年度の活動報告と2019年度の活動経過の報告を中心に行われた。
- ③午後は5グループに分かれて全国の仲間を知るためにはどうしたら良いか検討し、その結果を発表された。
- ④障害者差別解消法の手引き作成のプロジェクトメンバーに加盟団体にも参加して欲しいので後日お願いすることになった。
- ⑤加盟団加入希望団体として2団体、①吃音の会②さいたまオリーブの会がオブザーバーとして参加して頂いた。
- ⑥加盟団体加入のための手引書等の作成を検討することとした。

5 次回役員会は大阪宝塚黙想の女子修道院

で6 / 29 (土) ~ 30 (日) で開催予定

・「障害者差別解消法」の手引書とパンフ作成

を語り、日本司教団の社会司教委員会名で

発行できるように交渉する。

★今後の役員会日程

日程：9月21日（土）～22日（日）

場所：南山学園研修センター（名古屋）

研修セミナーなし

★機関紙「わ」発行予定

86号 2019年 5月 予定

87号 2019年 11月 予定

前回85号掲載「第13期会計予算表」

の収入「カ障連を支える会」としての

予算、正しくは2,400,000と訂正いたし

ます。合計金額等の変更はありません。

間違いお詫びとともに「支える会」へ

の一層のご協力をお願いいたします。



聖公会ナザレ修女会 聖堂

日本カトリック障害者連絡協議会会報「わ」

事務局：〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15

Tel : 052-852-1426 fax : 052-852-1422

郵便局振替口座番号：00100-7-31254（同封の振込用紙をご利用ください）

会費：年間1口 1,000円（団体 10口以上 個人 1口以上）

加入者名：日本カトリック障害者連絡協議会